



# フリー開発環境の インストールと設定

中村 建真

ARMマイコンは広く普及していることもあり、さまざまな機能を実現するフリー・ソフトウェアが存在する。しかしソフトウェアの相性を検証しつつ、それらを組み合わせて動作する開発環境を構築するのは大変な作業である。本章では、筆者がさまざまな組み合わせを検証した結果たどり着いた、ソフトウェア開発環境を紹介する。  
(編集部)

ARMマイコンを使用したソフトウェア開発には、FOSS (Free/Open Source Software) として提供されている多くのソフトウェアを活用できます。しかし、これらのソフトウェアは、比較的自由に使える代わりにメーカーが提供する統合開発環境 (IDE) のような一枚岩にはなっていません。機能別に開発されているツールを自分で探して、インストールする必要があります。

本章では、FOSSとして提供されている以下のソフトウェアを使用して、無償で組み込みソフトウェア開発環境を構築する方法を説明します (図1)。

- コード・ジェネレータ GCC
- 統合開発環境 Eclipse
- フラッシュROMライタ lpc21isp
- JTAG ICE用GDBサーバ OpenOCD

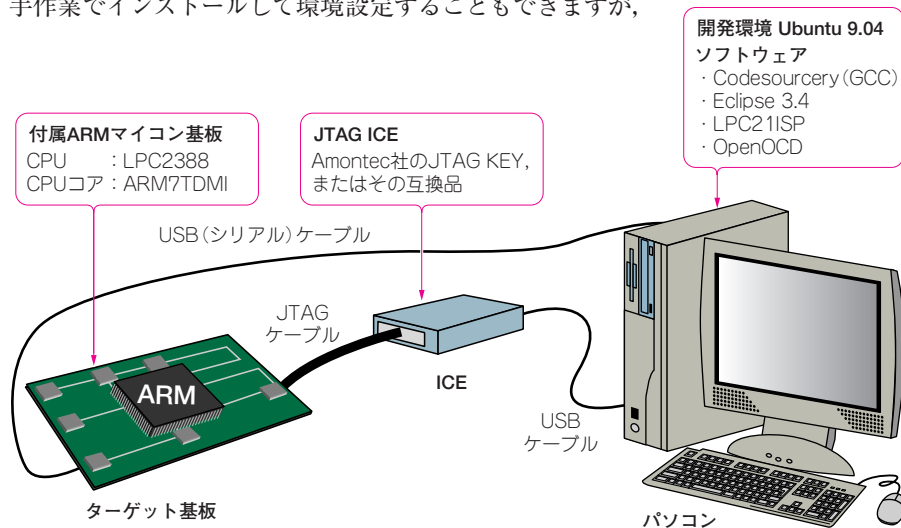
各ソフトウェアをインターネットからダウンロードし、手作業でインストールして環境設定することもできますが、

今回は簡単に確実に開発環境を構築できるように、自動でインストールする専用スクリプトを用意しました。スクリプトは付属DVD-ROMのsamples.tar.gzを解凍した¥samples¥installersの中に収録されています。また、本誌Webページ<sup>注1</sup>からダウンロードして入手することも可能です。

## 1 開発環境は Ubuntu Linux

今回の開発環境を構築するOSとして、Ubuntu Linux 9.04を使用します。Windowsの助けを借りることなく、Ubuntu上でプログラム開発やROMへの書き込み、デバッグを行える環境を構築します。

筆者がLinuxを使い始めたのは15年ほど前のKernel



注1: <http://interface.cqpub.co.jp/>

図1  
開発システムの構成